

## 第8回 北広島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 会議概要

日 時	平成29年3月28日(火) 15:00~16:10
場 所	市役所本庁舎2階会議室
出席委員	山本一彦委員・井出真也委員・小野麗子委員・宍戸圭子委員・田辺きよみ委員・藤山康雄委員・深村真人委員・古澤将委員・宮岡則昭委員・山口隆弘委員・渡辺勤委員
欠席委員	麻生昌裕委員・佐藤英明委員・丹野司委員
事務局	中屋企画財政部長・川村企画財政部次長・橋本企画課長・塚田主任
傍聴者	2名
会議次第	1 開 会  2 議 事  (1) 総合戦略事業の実施状況について(資料1)  (2) 次回推進会議の日程  (3) その他  3 閉 会

## 会議録

### 1 開会

- ・委員14名中11名が参加。委員の過半数が出席していることにより、会議が成立していることを報告。

### 2 議事

#### (1) 総合戦略事業の実施状況について

(事務局より資料に沿って説明)

〈基本目標1 希望 ～子どもを産み育てたいという希望をかなえる～〉

- ・委員からとくに意見はなかった。

〈基本目標2 交流 ～北広島市への新しい人の流れをつくる～〉

#### 【A 委員】

- ・「ふるさと奨学金事業」の募集枠は、どのくらいあるのか教えてほしい。

**【事務局】**

- ・30人程度で考えており、返済に関わる実際の予算措置は平成31年度からとなる。現在の大学4年生に、本事業についてうまく周知していく必要がある。

**【B委員】**

- ・「大学生市内居住推進事業」における引越し費用の助成は、どのような形で募集しているのか。

**【事務局】**

- ・道都大学にも協力していただき、大学側から新入生にアナウンスしている。また、市内の学生が住むマンションやアパートの管理者にも制度の話をするとともに、札幌市内の各大学に対しても個別に周知している。

**【C委員】**

- ・「ふるさと応援事業」について、市に来て感じてもらえるような返礼品を贈呈することにより交流人口の増加を図ることと記載しているが、来市してもらえる返礼品には具体的にどのようなものがあるのか。

**【事務局】**

- ・市内ゴルフ場の利用、ホテルへの宿泊、温泉の利用、農産物の収穫体験などのメニューを、4月のスタート時に用意する予定である。

**【C委員】**

- ・来られなかった人は、ものをもらうことはできるのか。

**【事務局】**

- ・ゴルフ場利用の例では、基本的には事前に寄附者がホームページ等々の条件を確認した上で寄附をしていただく形になる。そのため、体験施設の返礼品については、利用者自身が実際に来ていただけるように調整する必要がある。

〈基本目標3 成長 ～時代に合った魅力的なまちをつくる～〉

**【C委員】**

- ・「子ども夢チャレンジ応援事業」について、チャレンジの内容により助成額がかなり異なってくる。助成額に差がない方がよいのではないか。

**【事務局】**

- ・助成金額の上限を50万円と決めているが、子供たちの将来なりたいものに向けたチャレンジであることから、助成額を等しくするのは難しい。  
一方、この事業は地域で一体となって子どもたちを支援する取り組みであることから、市民あるいは市内の事業者、団体からの支援は、さらに大きな広がりができるのではと考えている。町、地域でより子どもたちを応援する仕組みを作っていけると、なおよい。

**【D委員】**

・「小中一貫教育推進事業」について、先進地視察を行った呉市はこの事業で有名であるか。

**【事務局】**

・呉市は、小中一貫教育の先進地であり、先日、導入に携わった先生を招き講演会を実施した。

**【E 委員】**

・「住み替え支援事業」について、先進地視察を行った流山市と滝川市はどのような取り組みを行っているか。

**【事務局】**

・流山市と滝川市では、住み替え支援の組織は市の外である商工会などが中心になっており、その組織が、補助や住み替えのワンストップの窓口を設置している。北海道では、滝川市のほかに後志で住み替え支援の取り組みを行っている。

**【E 委員】**

・「空き家流動化促進事業」について、上限を 50 万円から 30 万円に減らして、件数は 10 件から 30 件に増やしているが、30 万円に減らしたことによって、申請は増えると考えているか。また、1 件あたりの解体費用はどのくらいか。

**【事務局】**

・上限額の引き下げによる影響については、今の段階ではわからないが、問い合わせの状況等をみると、30 万円に引き下げても、それなりの需要は高いと考えている。

また、解体費用は、平成 28 年度の実績によると、1 戸あたり 100 万円から 130 万円である。

なお、解体の支援の条件に新たな住宅を建てるなどの条件を設けており、平成 28 年度は 10 件の助成をしたが、このうち 9 件はすでに新たな住宅が建築された。このことから、制度の目的である新たな人の流れにつながっている事業になっており、好循環が生まれていると考えている。

**【C 委員】**

・「生活バス路線利用促進事業」について、特に運転免許証返納者バス利用助成の申請数 90 件は、免許返納の予算 150 件に対して少ないのではないか。告知ができていないなど理由はあるか。

**【事務局】**

・運転免許返納者については、アンケートの中で 70 歳もしくは 75 歳以上まで免許を持ちたいという結果も出ており、90 件はそれなりの申請数であったと思っている。

なお、告知については、町内会回覧で全戸に行き渡るように努めているが、運転免許返納は、本人にとっても相当の決断であることから、例えば家族を含めた中で話す機会を増やすなども必要だと思う。

一方、利用者からは 1 回の助成額が 100 円であり、200 回分を使い切れないという

意見も出た。29年度からは複数枚利用できるように見直す予定である。

**【C 委員】**

- ・200回分が使い切れないのであれば、市のお店と提携して免許返納された方に特典をつけるなどしてはどうか。

**【事務局】**

- ・地域ぐるみの取り組みについては商工業者との連携が必要であるが、可能性はあると考えられる。しかし、交通手段がバスと JR に限定される当市においては、どこまで取り組みのサポートができるのかという課題はある。

〈基本目標 4 挑戦 ～チャレンジできる環境をつくり、起業と雇用促進する～〉

**【D 委員】**

- ・「空き店舗利用促進事業」について、KPI は累計 14 件と設定しているが、この KPI は平成 28 年度で達成したという理解でよいか。また、達成した場合、KPI の見直しは検討するのか。

**【事務局】**

- ・KPI については、平成 27 年、平成 28 年の 2 カ年で達成している。今後については KPI の見直しも含めて検討する必要がある。

なお、ファーストマイホームに代表される多世代住宅取得支援の制度利用による定住者数についても、今年度、達成の見通しとなっていることから、適切な KPI を考えていく必要がある。

〈全体を通じて〉

**【E 委員】**

- ・それぞれの事業における市民へのアナウンスの仕方について、現状では回覧板等に載せているが、今後はそれ以外の方法も考えているか。空き家流動化促進事業やファーストマイホーム支援事業以外は、予算が余っていることから、まだ知らない市民も多いのではないか。例えば、事業をわかりやすく一覧にして配るなどはどうか。

**【事務局】**

- ・いろいろな事業を行っているが、どのような形で行えば市民に届くのか、引き続きいろいろなやり方を検討していく必要があると思っており、これからもより丁寧に説明するように工夫を重ねていきたいと考えている。

(2) 次回推進会議の日程

- ・次回会議は、6～7 月を予定しており、実施日については、改めて調整したい。

(3) その他

- ・委員の一部変更、退任の報告。

3 閉会